

第3回 青木繁「海の幸」オマージュ展

東京展

2013年 7月19日(金) - 8月2日(金)

11:30am - 7:00pm (最終日は4:00pm終了・日曜休廊)



〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目10-6
TEL03-3547-9930 FAX03-3547-9778

地下鉄 東銀座駅A2出口より30秒



◎ オープニングパーティ (初日5:00pm)

◎ 特別展示 《青木繁作『梅野一像』》

主 催 / NPO法人 青木繁「海の幸」会
永井画廊

後 援 / 千葉県館山市・館山市教育委員会

第4回 青木繁「海の幸」オマージュ展

京都展

2013年 8月6日(火) - 11日(日)

12:00pm - 7:00pm (最終日は5:00pm終了)

ギャラリー **ヒルゲート**

京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町535
〒604-8081 URL <http://www.hillgate.jp/>
TEL075-231-3702 FAX075-231-3750



◎ オープニングパーティ (初日6:00pm)

◎ 記念講座(夜話市民講座Bコース)

テーマ / 青木繁の「海の幸」オマージュ

日 時 / 8月10日(土) 6:30pm - 8:00pm

場 所 / ギャラリーヒルゲート1F

講 師 / 山野英嗣氏(京都国立近代美術館・前学芸課長)

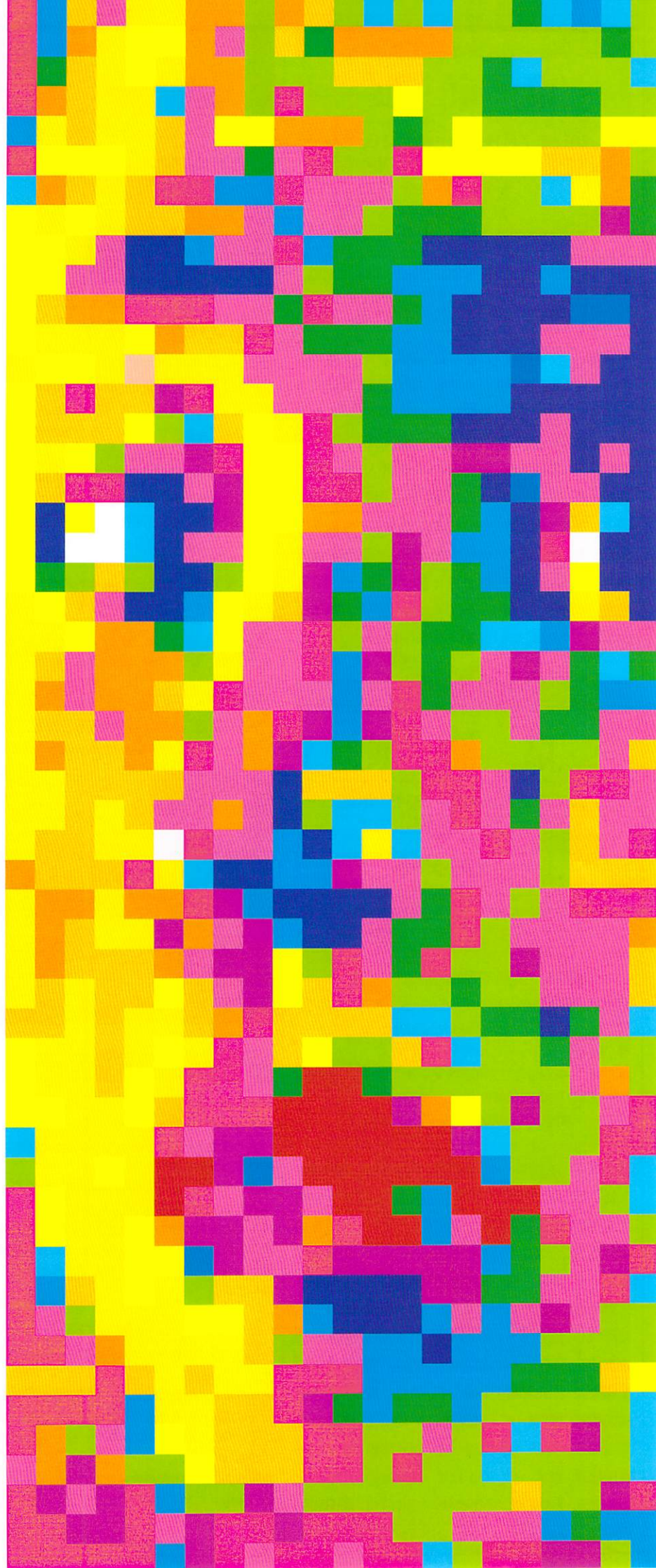
参加費 / 2,000円 茶菓付(学生1,000円)

申 込 / 事前にギャラリー迄お申込み下さい。

主 催 / NPO法人 青木繁「海の幸」会
ギャラリーヒルゲート

後 援 / 千葉県館山市・館山市教育委員会

青木繁「海の幸」オマージュ展



東京展

2013年 7月19日(金) - 8月2日(金)

11:30am - 7:00pm (最終日は4:00pm終了・日曜休廊)



〒104-0061 中央区銀座4-10-6 TEL03-3547-9930

特別展示 《青木繁作『梅野一像』》

- 浅野輝一 安達博文 入江 観 岩井壽照 上葛明広
 内山 孝 大内田敬 大津英敏 大塚恵美 大庭英治
 小川正明 小川幸治 金井訓志 金森良泰 岸田夏子
 北島治樹 絹谷幸二 木下 晋 久野和洋 甲田洋二
 小林裕児 齋藤 研 齋藤鐵心 桜井武人 桜井孝美
 佐々木豊 佐藤一郎 須藤美保 千住 博 田口貴大
 田中 茂 土屋泉太 寺田和幸 中嶋 明 中島千波
 中根 寛 中山忠彦 植崎重視 塗師祥一郎 張替眞宏
 平岡靖弘 廣田政生 馬越陽子 松岡 滋 三浦明範
 向井隆豊 森 一浩 柳千代子 山内滋夫 山本雄三
 吉岡友次郎 吉田宏太郎 吉武研司 米田和秀
 <出品予定作家 -50音順->

京都展

2013年 8月6日(火) - 8月11日(日)

12:00pm - 7:00pm (最終日は5:00pm終了)

ギャラリー ヒルゲート

〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町535
TEL 075-231-3702 FAX 075-231-3750

◎ 記念講座 一夜話市民講座Bコース

テーマ / 青木繁の「海の幸」オマージュ

日時 / 8月10日(土) 6:30pm - 8:00pm

場所 / ギャラリーヒルゲート1F

講師 / 山野英嗣氏(京都国立近代美術館・前学芸課長)

参加費 / 2,000円 茶菓付(学生 1,000円)

申込み / 事前にギャラリーまで (定員40名)

- 秋口悠子 浅野輝一 安達博文 池田龍雄 石井博康
 入江 観 岩井壽照 上葛明広 内山 孝 大内田敬
 大津英敏 大塚恵美 大庭英治 小川正明 小川幸治
 金井訓志 金森良泰 川村良紀 岸田夏子 北島治樹
 絹谷幸二 木下 晋 木村克郎 木村百合 日下部淑子
 久野和洋 甲田洋二 小灘一紀 小林裕児 齋藤 研
 齋藤鐵心 桜井武人 桜井孝美 佐々木豊 佐藤一郎
 佐藤忠弘 須藤美保 田口貴大 田中 茂 谷口千恵子
 土屋泉太 寺田和幸 中嶋 明 中根 寛 中山忠彦
 植崎重視 塗師祥一郎 張替眞宏 平岡靖弘 廣田政生
 馬越陽子 松岡 滋 三浦明範 向井隆豊 森 一浩
 森田康雄 森本 勇 柳千代子 山内滋夫 山本達郎
 山本雄三 吉岡友次郎 吉田宏太郎 吉武研司 米田和秀
 渡辺恂三 <出品予定作家 -50音順->



「海の幸」(重要文化財・石橋財団石橋美術館蔵)

「海の幸」オマージュ展とは

明治浪漫主義時代を駆け抜けた、夭折の天才・青木 繁。代表作「海の幸」(重要文化財)は、1904(明治37)年、東京美術学校を卒業して間もない頃に、館山市布良の小谷家で制作されました。2010年、この小谷家の修復、保存、公開を目的に、NPO法人青木繁「海の幸」会が発足しました。この度、「海の幸」会会員有志による青木繁「海の幸」オマージュ展が、東京並びに京都で開催される運びとなりました。青木繁の本質を探り、この天才に憧れた現役作家たちの力作をご覧くださいませようご案内いたします。

【青木繁「海の幸」オマージュ展 実行委員】

- 入江 観 大津英敏 奥谷 博 金澤 毅 絹谷幸二
 久野和洋 甲田洋二 齋藤 研 酒井忠康 佐々木豊
 中山忠彦 塗師祥一郎 林紀一郎 吹田文明 馬越陽子
 村田慶之輔 本江 邦夫 吉岡友次郎 吉武研司 ワシオトシロ

特定非営利活動法人(NPO) 青木繁「海の幸」会

〒214-0008 神奈川県川崎市多摩区菅北浦3-2-40

Tel&Fax: 044-945-5473 <http://uminosac.web.fc2.com/>



青木繁「海の幸」誕生の小谷記念館

青木繁「海の幸」オマージュ展によせて

「海の幸」は太古以来、海の恵みに感謝を捧げながら暮らしてきた日本人の生活の原点を想起させ、西欧から学んだ写実の表現で「日本」を描ける作者自身の新鮮な感動も伝わる浪漫溢れる名画です。本作発祥の場である小谷家を保存していくことは、私達日本人の心の故郷を守ることにも他なりません。弊廊での展覧会開催にご理解を頂いた大村理事長をはじめ関係各位、作品ご出品の画家の皆様へ感謝を申し上げます。本展の成功で小谷家が未来への架け橋となることを祈念いたします。

永井画廊 永井龍之介

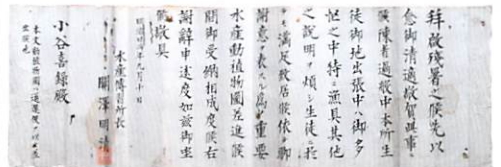
今回は、微力な私どもに参画のお声をいただき、大変光栄に存じます。あまりにも有名な「青木繁」と「海の幸」。けれど、関西からは南房総の海は遠く、1904年もまた遠いのです。故にこそ、今、京都への巡回展を開かせていただく意味はあるのかもしれない。貴重な文化遺産と創造の海としての景観を守る試みを、関西の美術ファンに知っていただく機会とすべく努力したいと思っております。

ギャラリーヒルゲート 人見ジュン子

発見! 青木繁は、きっと見ていた!

魚貝類満載の図「日本重要水産動植物之図」

▼小谷家の天袋の奥から古書箱が2012年7月に新しく発見された。「近代漁業のバイオニア」とされる関澤明清さんから、お世話になった小谷喜録さん宛に、1890(明治23)年9月10日付で、魚貝類満載の「日本重要水産動植物之図」を贈るという内容。



発見書

▼青木繁が、九州に帰省中の親友、梅野満雄宛に送った布良からの「絵入り書簡」に40種もの魚貝類のナマエの採録がみられた。すわ、この図から魚貝類のナマエが引用されたかと、思われた。

▼この図は、青木繁らが小谷家に逗留した1904(明治37)年当時、「間違いなく彼らはこの図を見ているはず」と、喜録から3代目の小谷福哲氏は語っています。おそらく画家である青木らは、この総天然色の図を興味津々に、食い入るように見たに違いありません。

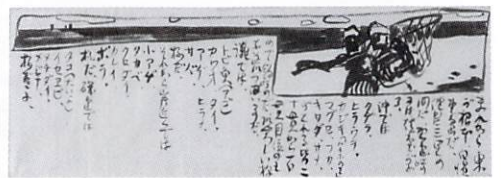
▼この図は1889年パリ万博のため、農商務省水産局で作られたカラー石版画(リトグラフ)で、題字下にフランス語訳もあります。また図は年度を代えて幾種類か訂正版が刊行されています。なお、破損したためか、額縁に合わせるためか、元図から四方が裁断されて40×60cm位の額縁に入れられた。さらに裏側から破損箇所には、切り取った同じ紙で補修されています。



日本重要水産動植物之図 第1巻

▼海の幸会の仲間たちも幾度となく小谷家を訪ねていた。青木らが寝起きしたオクフタマのなげしに窓際に向けて、いつも無造作に3点並べて飾ってあった。まさか当時の印刷物とは、だれも思いはしなかった。しかし、2013年1月に図を仮調査した限りでは、色褪せや紙焼けはみられるが、120年も前の印刷物とは思えないほど、きれいなまま残されていた。

▼青木の「絵入り書簡」では魚貝類のナマエが一般的すぎるため、引用の有無がはっきりしない。青木は、「沖では、灘では、岸辺近くでは、磯部では、濱磯では」などと、魚場を特定して記述していることから、魚の生態をきちんと理解したうえで使い分けています。今後も調査研究は続行しますが、かりに引用があったとしても、布良からの「絵入り書簡」で語る「海の幸」完成まじわりの歴史的証言が、価値が、変わることは決してないと考えられます。



青木繁の布良見信「絵入り書簡」(京都市梅野記念館蔵)